

たじみん昼話 55

高校で多くの教科を学ぶ意味

新型コロナウイルスの猛威で打撃を受けた業界の一つが飲食業界だ。特に街角の飲食店は大変な状況にある。

この状況に水平思考で立ち向かったのが、東京・目黒のイタリアンレストランのオーナーシェフだ。彼は、イタリアの三つ星レストランの副料理長の経験があり、経営するイタリアンレストランは超高級店として人気があった。しかし、このコロナ禍で客足が途絶え倒産寸前にまで追い込まれていた。閉店も考えていた時、知人から「全く違う世界を経験すると、視野が広がり、復活の糸口が掴めるのでは。」とアドバイスを受けた。

迷ったあげく、徹底的に合理化された店の経営手法を学び、水平思考して自分の店の復活のヒントを得るために、彼は、「サイゼリヤ（同系統のイタリアンレストランで売り上げ1位）」に、アルバイトとして飛び込んだ。そして彼は、超一流のシェフというプライドを捨て、先輩学生アルバイトの下で懸命に働いた。いろいろ傷ついたのでは?という問いに、最初は戸惑ったという。しかし、一流の味を維持しながら、徹底的に経営を合理化する手法を学びとることに必死だったので、傷ついている暇はなかったと語る。そして今では、経営概念を全面的に塗り替え、強靱な経営手法が確立できたという。

しかし、商売敵となるアルバイト先の店は、なぜノウハウを惜しみなく教えたのだろう。その理由は、相互に学ぶことで水平思考や垂直思考が促され、業界全体の底上げに繋がると考えたからだ。と店長は語る。この店長の考えに感銘を受けたシェフは、自分の店の経営が好転した現在も、業界の底上げという使命を果たすためアルバイトを継続している。

我々は、新しい考えを得たいとき過去の知見を参考にして考えることが多い。飛躍した発想の多くは過去の知見の応用である。つまり、新しい課題の解決を図るには、より多くの経験による知見の蓄積とその活用方法を熟知する必要がある。前者は知識を学ぶことであり、後者は思考法の体得ということになる。そして、この体得すべき思考法には、思考を横へ広げて同分野を参考にして考える水平思考法と、過去の歴史に学ぶ垂直思考法がある。

学校で多くの教科を学ぶ理由もここにある。多くの教科を学ぶことで、多面的かつ多角的な考え方や見方が経験でき、様々な分野の知識が得られる。これが発想の基になる知識の蓄積に貢献し、様々な思考方法の基になる水平思考法と垂直思考法を体得することを可能にするからだ。そしてこの達成こそが、文科省が掲げる「不確かな未来を生き抜くために必要な課題解決能力の育成」という教育目標を具現するからだ。

新しいスタイルを確立するためにあえて他分野を経験して、自分の専門分野に応用する。このシェフの姿勢が、その必要性和有用性を示していると言えないだろうか。